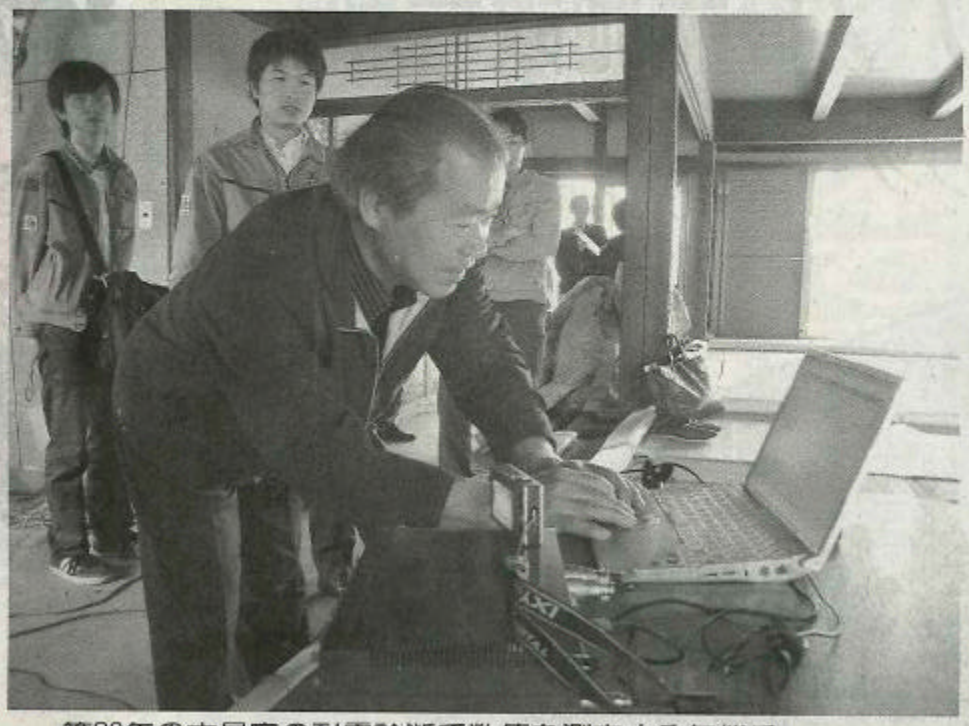
伝統構法そのままに耐震化

豊川の古民家を診断

元早大教授 毎熊氏 揺れ測定、数値で性能評価



築80年の古民家の耐震診断で数値を測定する毎熊氏
＝豊川市千両町で

建物の揺れを測定し、数値で耐震性能を評価する耐震診断が18日、豊川市千両町にある築80年の「古民家」で行われた。この診断により、柱や梁(はり)を主体とした伝統構法の古民家のかたちをそのままに耐震化、リフォームを可能にするといい、住宅建築会社では「伝統構法の建物の再生、安全確保に役立つ」と期待している。

耐震診断に当たったのは、元早稲田大学理工学術院教授・毎熊輝記氏(73)。同町の古民家でリフォームを手がける戸田工務店(新城市)や、愛知県古民家再生協会(戸田由信理事長)から依頼を受けて実施した。

毎熊氏は、図面や目視による一般的な耐震診断ではなく、地震計を地上と建物内に設置し、建物全体の揺れの大きさや性質などを測定。数値で耐震性能を判断する調査方法「早稲田式動的耐震診断」を確立した人物で、「建物の実態が分かるほか、耐震改修後も計測するので、改修が有効かどうか数値で確認できる」と説明する。

基礎や壁がなく、太い柱や梁が主体の伝統構法の古民家について、毎熊氏は「揺れに対し、元に戻ろうとする復元力がある。診断の結果、床の強度を高めたり、屋根を軽くしたりすることなどで復元力を高められ、揺れを抑えることもできる」と解説した。

戸田工務店では「壁などを設けずに安全性を高めながら伝統構法の古民家を再生できることになる」と話した。

(中村晋也)

骨董&総合買取
稀彩洞
古い物買取りします
☎0532・56・0153
豊橋市汐田町

前年比10・2%の

豊川市の冬期節

豊川市は、東日本大震災の影響による電力不足を受けて実施した冬季節電対策の効果を発表した。強化期間とした昨年12月から3月までの市役所、支所など事務所系7施設の節電効果は、前年比10・2%削減となり、目標の10%削減を達成した。

市役所、一宮総合支所、音羽支所(文

市民活動資金を補助

田原市が交付希望者募る

まちづくりの担い手となる市民活動を支援する狙いで、田原市は、各団体の事業や人材育成などに要する補助金の交付希望者を5月21日まで募る。

今年度創設した「市民活動向上事業補助金制度」で、行政の役割